

平成 24 年度 第 1 回 One Book One OSAKA 事業運営委員会議事録

1. 日時平成 24 年 7 月 25 日（水）午後 1 時 30 分～3 時 15 分
2. 場所大阪市立中央図書館 5 階 中会議室
3. 出席者別紙「平成 24 年度 One Book One OSAKA 事業運営委員」参照
4. 会議内容

●中央図書館館長より挨拶●

運営委員の 3 分の 1 の方は新規の方、3 分の 2 の方が再任。子ども運営委員も 6 名参加。

One Book One OSAKA 事業は、運営委員をはじめ、各区の図書館を拠点に活動されている市民ボランティアの協力を得ながら、市民の皆様の投票により「大阪市の 1 冊の絵本」を決定する事業である。平成 21 年度より実施し、昨年度第 3 回 One Book の投票には、14,194 票、第 1 回の 1.7 倍もの応募をいただき、関連イベントも 70 回開催。4 月 23 日の子ども読書の日には、中央図書館において One Book 発表会を開催し、大阪市教育長から第 3 回 One Book 絵本を発表した。

図書館の対面朗読事業に協力頂いている朝日放送の三代澤アナウンサーに One Book に選ばれた絵本『おまえうまそうだな』の読み聞かせをしていただき、会場には地元の小学生 250 名も参加した。

本事業は、投票促進や関連イベントなど、600 以上の施設にも協力を得て、効果的な読書普及活動として浸透してきている。本事業の今後についてご審議いただきたい。

●委員紹介●

●議事●

- (1) 「大阪市 One Book One OSAKA 事業実施要綱」について
(別紙「大阪市 One Book One OSAKA 事業実施要綱」参照)

実施要綱第 3 条第 3 項 (3) に則り、運営委員の互選により運営委員長・副運営委員長を以下のとおり定める。

運営委員長： 渡邊裕美子さん（東淀川区）

副運営委員長： 上田 道代 さん（浪速区）

- (2) One Book One OSAKA 事業の実施報告について

- ・ One Book 発表会等（One Book One OSAKA NEWS 18 号・19 号参照）
- ・ 子ども運営委員より
⇒ 4/4 トップランキング 10 に入った絵本を持って、決定した第 3 回 One Book、及び、審議経過を教育長に報告。4/28 には、中央図書館で開催したおたのしみ会において、子ども運営委員による『おまえうまそうだな』と『もこもこもこ』の絵本の読み聞かせを行った。緊張したが、

読み聞かせをしたときの小さな子どもたちの表情が見えるのが嬉しかった。これからも読み聞かせを頑張りたい。

- ・ 自己評価シート

⇒ 本事業が教育委員会事務局の平成 22 年度ベストプラクティス事業候補になる。市民ボランティアや子ども運営委員と一緒に事業を進めているところが特に評価されている。図書館だけでなく、600 以上の施設と連携し読書機運を盛り上げ、マスコミにも取り上げていただいたことが相乗効果となって、出版社や書店の協力も得た。絵本の貸出冊数や投票数

- ・ イベント実施回数、参加者数も増加傾向にある。

「One Book One OSAKA 事業の自己評価」シート参照・残された個別課題について

⇒「平成 24 年度 One Book One OSAKA 事業の残された個別課題について」参照

(3) 継続に向けた財源確保策・運営形態等について

① これまで頂いた本事業に関わるご意見・運営委員会

- ・ 企画 PR 部会での運営委員からのご意見（抜粋）
- ・ 平成 23 年度外部評価者会議（局ベストプラクティス事業審議）
- ・ 平成 24 年 2 月 14 日図書館有識者会議

② 本事業の継続について・運営形態、財源、投票手法等について 案提示

【各運営委員からのご意見・ご感想】

■事業継続・財源・運営形態について■

- ・ 本事業の継続を希望。予算がなくなったのですっぱりやめるというのでは、じゃあ今までの取組みは何だったのかと感じてしまう。
- ・ 投票数が年々増加している。隔年実施でも継続をしていきたい。
- ・ 毎年実施しても同じような絵本が上がってくるので、ある程度のスパンをおいて実施するのも良いかと思う。
- ・ イベントと投票を隔年で実施することに賛成。
- ・ 予算がないところを人の知恵と足と心を使って広げていく、絵本を通して人をつないでいくのがボランティア本来の仕事。
- ・ 予算に関しては、実行委員会をたちあげ、事業を洗いなおせば、もうすこしスリムになる可能性がありそうだ。
- ・ 各種助成金の活用などは、ボランティア団体が中心となって実行委員会を組織し、申請する必要がある。
- ・ 協賛金を企業から募るとのことだが、図書館にも品格が必要、品格をかなぐり捨てて財源確保に翻弄されないことを願う。
- ・ 継続するにあたり、実行委員会は必要。図書館だけではもたない。イベントも大切なので、助成金が必要。
- ・ One Book 関連イベントが中心になってしまっていて、イベントに向く絵本が One Book に選ばれるようになることには危惧を抱いている。「100万回生きたねこ」のような大人になっても手離さない絵本

を、イベントに向かないという理由で選ばないことに疑問を感じる。

- ・ 子ども運営委員も加わってイベントをすることは絵本の楽しさを伝えるうえで必要。
- ・ イベントについては場所を提供してもらえれば、ボランティアの力が借りられると思う。・ 投票を少しお休みして、図書館の本来事業を守るような考えがあってもよい。
- ・ この3年間で課題も見え始めたが、それを超える成果も見えてきたのでは。知らない人同士が本でつながる本事業の継続を望む。
- ・ 継続を願っている人は多いはず。とはいえ実行委員会の立ち上げは大変。今まで図書館が担っていた会計・決算
- ・ 報告などを自分たち（ボランティア）でしなくてはならない。開票作業の煩瑣が課題になるとしたら、候補リスト形式になるのはやむを得ないのではないか。予算としては印刷費が一番かかる。削れるところは削って、何が要るのか見つけることが必要。隔年でも続けていけたらと思う。
- ・ 大阪市は学力調査で全国平均より低い状況、本を読むことと学力には相関関係がある。読書習慣をつけさせるためにも子どもに本を薦めて楽しませる施策が必要。本事業の継続に期待。
- ・ 継続の方向性は確認できたのでは。・ 府立図書館との提携で裾野が広がる。先方が乗り気になってくれるのなら賛成。
- ・ One OSAKA、一つの大阪なのだから、府立との連携は目指すべき。
- ・ 府立図書館との連携や府域にも広げることで、よけいに開票作業が大変になるのではないかと
⇒手を挙げていただける自治体さんがあれば、当該自治体で集計し結果を頂戴するイメージ
- ・ 書店との連携も考えればどうか。
- ・ 継続という方向性を確認できるのなら、実行委員会の立ち上げを期待する。子どもを本好きにする、言語力の育成の基本は家庭だと考えるが、関係機関の連携は大切。
- ・ つい最近まで本事業に関係のない外部の人間だった者の視点から言えば、毎年継続し続けることに大きな意味があり、そうすることで浸透していく。

■投票手法、候補リストの設定等について■

- ・ 本事業の投票手法において、候補リストから選ばず、自由に選ぶことができるところが一番素晴らしいと思っていたので、提示された案の「その他欄にタイトル自由記入」形式は是非採用して欲しい。
- ・ 候補リストからだけでなく、すべての絵本から選べる仕組みを残してほしい。
- ・ 候補リストは、何を選んだらよいかわからない人にはとっつきやすいと思う。
- ・ 開票時、絵本以外のものに大量に票が入っているのが作業のうえでネックになっていると聞いていた。現実に鑑みて、候補をあげるというのもひとつの案。ランキング上位の絵本だけでなく、バラエティに富んだ絵本を候補にすると良いのでは？
- ・ 候補リストから選ぶ方式には疑問あり。また、今後何十年と継続するにあたって、毎回違うタイトルが選出されるかどうかも疑問。
- ・ 中学生以上から大人の世代層には思い入れのある絵本への投票が多いものの、小さな子どもたちは直前に読んだ絵本などを選ぶ傾向もあり、リストを作ってそこから選ぶ方式もよいのではと思う。
- ・ どういう理由で1冊の絵本を選んだかに興味がある。お気に入りの理由記入欄は残すべき。
- ・ なぜ投票するか、ランキングには上がらないけど、みんなに知ってほしい絵本に投票する、その投票

動機と候補作から選ぶ方式の採用にはズレを感じる。

- ・ 候補リストがあったほうが良いと思う。リストをもとに絵本を展示して、そのうえで選んでもらうのが良い。
- ・ みんなが知っている絵本もよいが、あまり知らない絵本も候補リストに含まれているのも楽しいのでは。
- ・ 候補は参考リストとしてつけるのなら良いと思う。財源の課題もあるので、毎年実施は難しいのでは？・ 候補リストで絞る手法に切り替えていくのもよいのではないか。本があふれている日本なので、絞ったリストを提供し選んでいただくのも一つの方法だと思う。
- ・ 候補リスト化すればランキングの下位の本も見てもらえるきっかけになるのでは。・ 本事業は単純な人気投票ではない。候補リストを作成するにしても例えば 1970 年代の絵本とか、テーマを決めるなど毎年視点を変えてみるのも一考。
- ・ 大人が子どもにプレゼントしたい絵本・・・などで候補を絞るのも一つの方法では。・ ランキング外の絵本にもいいものはたくさんある。これは・・・という絵本を集めるのも大人の仕事。・ 集計作業も実行委員で行うなら、効率的な作業となる投票手法を選択する必要がある。
- ・ インターネットを活用しての投票もこれからは必要、投票の少ない年代層の参加も期待できる。
- ・ ネット投票にしてもお気に入りの理由が書けるとするのがいい。
- ・ 投票を区単位で実施し、最後にまとめるのはどうか。・ 大阪市立全小学校や幼稚園、保育園等へ全児童分の投票用紙を図書館から配布しているが、その手法が大事、そこから抜けていくのはボランティアの仕事。

■その他■

- ・ 小学校の朝読にボランティアとして関わっている。本事業は徐々に浸透していると感じる。校長より One Book のトップランキングリストにより学校図書館の図書を購入していると伺った。本事業に関わっている者としてやりがいも感じる。
- ・ これまでの 3 年間の活動で、蓄積されたランキングリストや投票用紙などを本事業に生かしていくということが大切と感じる。・ 今回の運営委員会の継続案提示資料を事前に欲しかった。ここでは判断出来ないで、持ち帰って区内で相談したい。
→この運営委員会の場で、財源確保も保障されないなか、具体内容まで決定しない。実行委員会を立ち上げるとして、この場での意見を参考に、実行委員たちで進めていくことになる。
- ・ 実は One Book 事業のことをよく知らなかった。もっと広報したほうが良いのでは。ぜひ投票されたお気に入りの理由を描かれた用紙（館内展示中）を見て帰りたい。
- ・ お気に入りの絵本 1 冊をその理由とともに書くという本事業の投票について、実は、なかなか決められなくて、この 3 年間、1 回も投票していない。
- ・ 市立保育所には図書館から毎年 100 冊の絵本の配本がある。それを活用し保護者にも貸出を実施している、家庭のなかでも保護者に絵本の読み聞かせの時間を作ってほしいと願っている。小さい子どもに、心育て、人間の基本を絵本のなかで教えることも出来る。予算のない厳しい条件下で、何が出来るのか考えていきたい。・ 本事業は家庭で本を楽しむちょっとした働きかけ、きっかけづくりにもなる。

(4) 今年度の本事業関連イベントについて

●各区の関連イベントの計画について

- ・ 絵本展や One Book を使ったのお楽しみ会、高齢者施設との共催イベント、恐竜の折紙教室など、いろいろ計画されている。

第2回の運営委員会には実施経過を報告する予定。

●子ども運営委員会・夏休み活動

- ・ 8月2日（木）・7日（火）開催、図書館探検や企画会議など

●秋の One Book 関連イベント企画について

- ・ 12/15（土）宮西達也氏講演会
11/23・24（祝・土）えほん展

平成24年度主なスケジュール【予定】

5月 各区で One Book 関連イベント開始 → 3月末まで実施。

7月 25日第1回 One Book One OSAKA 事業運営委員会

8月 2日・7日 子ども運営委員会・図書館体験

9・10月 関連イベント準備

11月 One Book 関連イベント（中央図書館）

12月 15日 宮西達也講演会

参考：

- ・ One Book One OSAKA 事業の企画概要
- ・ これまでの経過（平成21～24年度）
- ・ 予算調書、投票用紙配付先一覧
- ・

●副館長より閉会の挨拶●

本事業の継続については、運営委員の皆さんでご確認いただいた。

継続は力なり。本事業は One Book を選ぶ過程で絵本と触れ合い、選んだ結果をふまえて関連イベントなどの事業を展開すること。この事業はまだまだ知られていない。広げていくということも含めて継続の方向性が確認されうれしく思う。図書館主体の運営委員会ではなく、実行委員会を皆さんで作って進めていくことになる。

課題もたくさんあるが、その課題は見えているので、ひとつひとつクリアしていきたい。これからも引き続きのご協力を賜りたい。